

各 位	2014年6月16日
	原爆文学研究会事務局
	〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1
	福岡大学人文学部 中野和典研究室内
	tel:092-871-6631 (代表) /e-mail:nakanok@fukuoka-u. ac. jp

第45回 原爆文学研究会のご案内

時下益々ご清栄のことと存じます。第45回原爆文学研究会を下記の要領で開催いたします。皆さまには、ご多忙のことと存じますが、万障お繰り合わせの上お集まりくださいますようお願い申し上げます。

今回は通常の研究発表に加えて講話と「戦後70年」に向けて2つの連続ワークショップも行います。会場・資料の準備の都合もありますので、**参加をご希望の方は2014年7月25日(土)までに「(1)1日目研究会」「(2)懇親会」「(3)2日目研究会」のそれぞれについて参加／不参加を明記して事務局にeメールかお電話でお申し込みください。**

記

○ 日時：2014年8月2日(土)・3日(日)

○ 会場：名古屋大学大学院国際開発研究科第一会議室(8階)
(〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL:052-789-4952)

○ プログラム

【1日目】8月2日(土) 13:00～18:10

12:30	開場	
13:00	開会・自己紹介	
13:15	研究発表1	プロキノと映画『広島・長崎における原子爆弾の影響』をつなぐもの ―― 焦土の撮影とその前史をめぐる
		雨宮 幸明
14:45	(休憩)	
15:00	研究発表2	原爆文学と原発表象をめぐる理論的覚書その3 ――現代小説を題材に「核」と「内戦」について考える――
		柳瀬 善治
16:30	(休憩)	
16:45	講 話	図書館の自由について ――『原爆と差別』事件から「はだしのゲン」「アンネの日記」問題まで
		西河内 靖泰
18:00	事務局から	
18:10	1日目閉会	
18:30	懇親会	

【2日目】8月3日(日) 10:00～16:40

	「戦後70年」連続ワークショップⅠ 原爆文学「古典」再読1―井伏鱒二「黒い雨」	
10:00	司会者から―「黒い雨」受容史の整理	中野 和典
10:20	発題1	齋藤 一
10:40	発題2	中谷 いずみ
11:00	全体討論	
12:00	ワークショップⅠ終了・休憩	

	「戦後70年」連続ワークショップⅡ 原爆体験の〈表現〉と〈運動〉――60・70年代を中心に	
13:00	司会者から	川口 隆行
13:10	報告1	被爆体験を〈書く〉 ――山代巴と『原爆に生きて』・『この世界の片隅で』を中心に――
		キアラ・コマストリ
13:40	報告2	「原爆文献を読む会」とは何だったのか
		小沢 節子
14:10	スライド作品上映	『ある原爆被災者の記録 福島菊次郎写真集「ピカドン」より』
14:35	(休憩)	
14:50	報告3	「核」の連鎖・「難死」の連鎖：小田実『HIROSHIMA』を読む
		道場 親信
15:20	コメント	川口 隆行
15:30	全体討論	
16:30	ワークショップⅡ終了・事務局から	
16:40	2日目閉会	

※今回の研究会は、名古屋大学大学院国際開発研究科に後援をお願いしています。

※2日目の「戦後70年」連続ワークショップは、科学研究費(基盤B)「核・原爆と表象／文学に関する総合的研究」(研究課題番号：26284038 代表：川口隆行)との共催事業になります。

【趣意文】「戦後70年」連続ワークショップⅠ 原爆文学「古典」再読1―井伏鱒二『黒い雨』

何が「原爆文学」の「古典」であるのかを厳密に定めることはむずかしいが、長く読みつがれている「古典」と呼べるようなテキストもある。それらはなぜ現在にいたるまで読みつがれてきたのか、また、それらは「戦後70年」を超えて読みついでいくべきどのような可能性を持っているのか。このワークショップでは、同日に開催するもうひとつのワークショップのテーマとも関係の深いテキストを選び、それについて研究分野の枠を越えて語り合いたい。その第1回目のテキストは井伏鱒二『黒い雨』。司会者(中野和典)が『黒い雨』の受容史を整理し、2人の発題者(齋藤一・中谷いずみ)がそれぞれの視点から問題提起を行った上で、会場全体で討論を行う。

【趣意文】「戦後70年」連続ワークショップⅡ 原爆体験の〈表現〉と〈運動〉―― 60・70年代を中心に

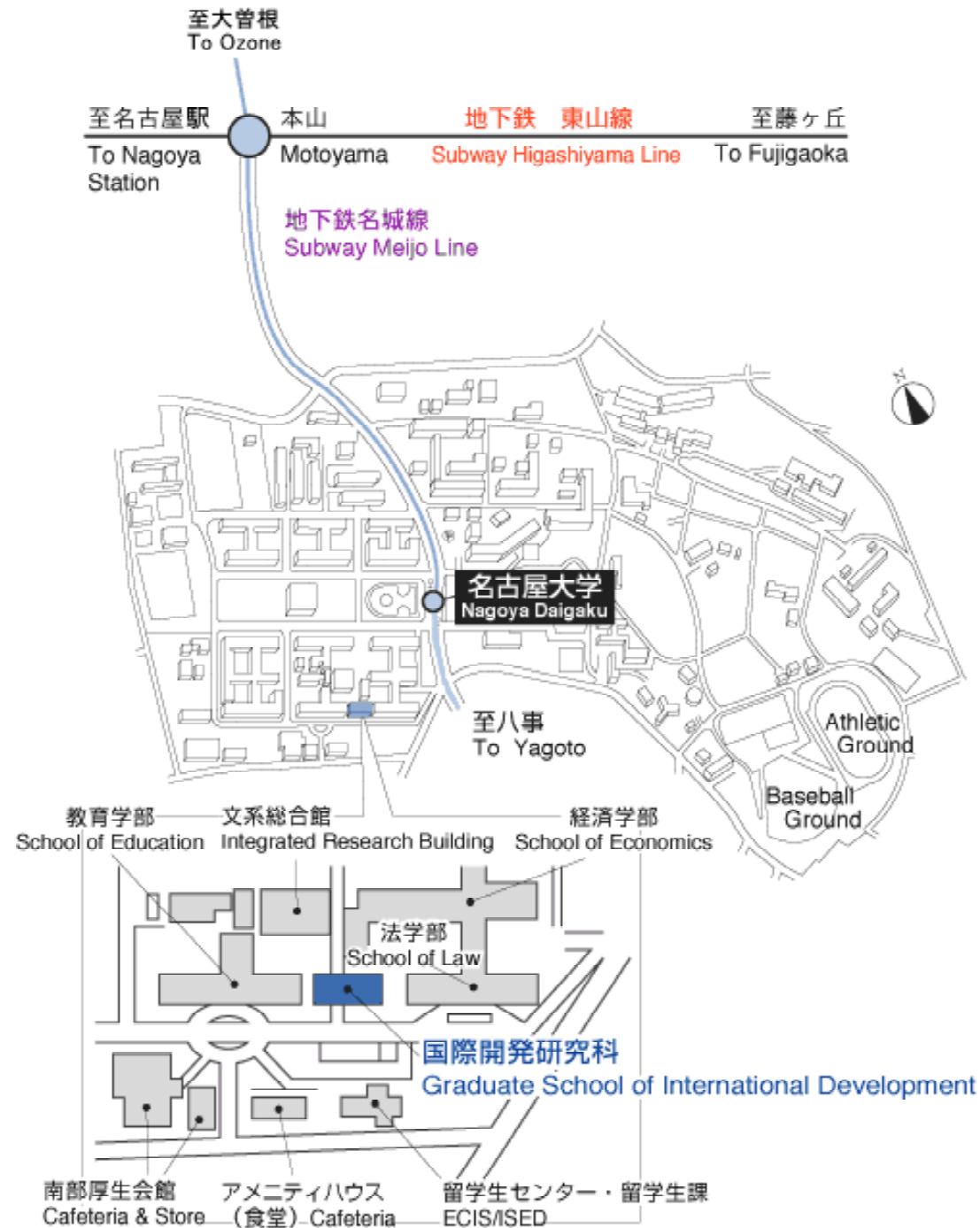
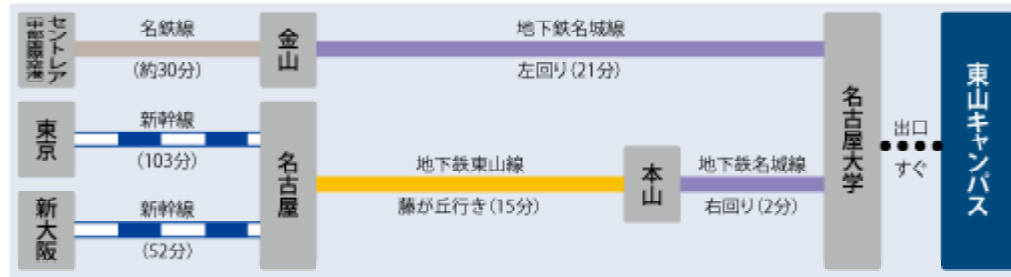
福島原発事故から3年、ビキニ事件から60年、そして来年は、広島、長崎への原爆投下から70年を迎える。軍民両用を本質とする核をめぐる議論は、新たな練り上げを必要とする時期に来ているのではなかろうか。

「戦後70年」に向けた連続ワークショップは、そのための共同作業の助走にはかならないが、第一弾として、60年代から70年代にかけての〈表現〉と〈運動〉の関係に光をあてたい。この時期、『ヒロシマ・ノート』や『黒い雨』など、被爆体験を持たない書き手の作品がベストセラーになったが、その背景には被爆体験を社会的に広く共有しようとする動きが存在した。小説や詩といったフィクション・文芸作品は、自律した価値を有するものとして享受される一方、広義の「証言」としての役割を担いもした。被爆者救済運動やベトナム反戦運動など様々な社会運動と結びつき、時には背離もする表現行為は、既存の制度や法が不可視化してきた領域を切り開き、体験の継承あるいは思想化といった問題とも不可分であった。

論点は多岐に渡ると思われるが、今回は三人の報告者の問題提起を受け、全体で自由な議論を進めていきたい。キアラ・コマストリ氏には、前史も踏まえつつ『この世界の片隅で』を中心とする60年代の山代巴の問題を、小沢節子氏には、70年前後に長岡弘芳や中島竜美などが参加した「原爆文献を読む会」の実態について、道場親信氏には、小田実にとってのベ平連運動とその思想化について80年代初期までの展開も視野に入れたかたちで、それぞれ報告してもらう。

なお、小沢報告と関連して、「原爆文献を読む会」のメンバーが制作、上映運動をしたスライド作品『ある原爆被災者の記録 福島菊次郎写真集「ピカドン」より』を上映する予定である。

名古屋大学東山キャンパス—地下鉄名城線名古屋大学駅下車すぐ



※地図の下側（南側）の正面玄関からお入りください。

ホテルが多いのは名古屋駅か栄周辺ですが、どこに泊まっても地下鉄で来られますので、たいした違いはないとこのことです。大学まで比較的アクセスが良く、価格も手頃なホテルを下記の通りご紹介いただきました。ご予約は各自でお願いいたします。

【覚王山・池下エリア】

ルブラ王山（名古屋市千種区覚王山通8-18 TEL：052-762-3105）<http://www.rubura.org/index.html>

※地下鉄「覚王山」「池下」から徒歩3分。大学に最も近いホテル。

【千種・今池エリア】

ホテルルートイン名古屋今池駅前（愛知県名古屋市千種区内山3丁目31番7号 TEL：052-745-3211）

http://www.route-inn.co.jp/search/hotel/index.php?hotel_id=591

※朝食が無料、大浴場あり、地下鉄「今池」駅から徒歩1分。大学へは20分程度。

メルパルク名古屋（名古屋市東区葵3-16-16 TEL：052-937-3535）<http://www.mielparque.jp/ngy/ngy01.html>

※地下鉄「千種」駅から徒歩1分、大学へは20分程度。

【市役所・丸の内エリア】

ウィルあいち（愛知県名古屋市東区上堅杉町1番地）TEL：052-962-2511 <http://www.will.pref.aichi.jp/>

※地下鉄「市役所」駅から徒歩10分。大学へは地下鉄名城線1本で、徒歩を含め35分。

「女性総合センター」ですが、宿泊室は男性も利用可能。

部屋数は少ないが、ビジネスホテルと比べて遜色ない設備。宿泊費用は、かなりお値打ち。

KKR ホテル名古屋（名古屋市中区三の丸1-5-1 TEL：052-201-3326）<http://www.kkr-nagoya.jp/index.html>

※地下鉄「市役所」駅から徒歩10分。大学へは地下鉄名城線1本で、徒歩を含め35分。

14日前などの早割は、かなりお値打ち。

アイリス愛知（名古屋市中区丸の内2-5-10 TEL：052-223-3751）<http://www.iris-aichi.com/>

※地下鉄「市役所」駅から徒歩8分。大学へは地下鉄名城線1本で、徒歩を含め35分。

1か月前・14日前などの早割は、お値打ち。

【栄エリア】

ホテル・ザ・ビー名古屋（名古屋市中区栄4-15-23 TEL：052-241-1500）<http://www.ishinhotels.com/theb-nagoya/jp/>

※地下鉄「栄」駅から徒歩5分程度。大学へは30分程度。

紀州鉄道名古屋栄ホテル（名古屋市中区錦3-7-13 TEL：052-951-0841）<http://www.kitetsu-hotel.jp/nagoya/>

※名古屋一の繁華街である栄・錦にあり、地下鉄「栄」駅から徒歩3分程度。

名古屋大学へは30分程度。

アパホテル名古屋錦（名古屋市中区錦3-15-30 TEL：052-953-5111）<http://www.apahotel.com/index2.html>

※名古屋一の繁華街である栄・錦にあり、地下鉄「栄」駅から徒歩2分程度。

名古屋大学へは30分程度。